

日本(琉球列島)初記録のメギス科魚類

林 公 義*

First record of *Pseudochromis fuscus* (Pisces: Pseudochromidae)
from Ryukyu Islands, southern Japan

HAYASHI M.*

During the last few years, the author investigated the fish fauna of the Ryukyu Islands, southern Japan. By the research in 1991, unrecorded species of *Pseudochromis fuscus* was collected from the Amami Islands. Recently *P. fuscus* was known from the Amami to Yaeyama Islands, southern Japan. In the present paper, *P. fuscus* is recorded as new to Japan. This species has been reported widely from the Indo-West Pacific. *P. fuscus* was found around shelves of living massive corals, at the depth of 5-10 m. This species is clearly distinguished from 6 valid species of the genus *Pseudochromis* in Japan, by having 25 to 27 dorsal rays, 14 anal rays, a truncate caudal fin, higher body depth, straight-lined shape of head, soft dorsal and anal fins with narrow longitudinal blue lines. *P. fuscus* in the Indo-West Pacific has been known by two different colorations of its body the dark type and the pale type. Specimens in Japan developed the same tendency.

はじめに

インドネシアのセレベス島を模式産地として、MUELLER and TROSCHER(1849)により記載された *Pseudochromis fuscus* が琉球列島海域から採集された。本種は原記載後、多くの研究者によってインド-西部太平洋の各海域 (BURGESS and AXELROD, 1988; RANDALL *et al.*, 1990 etc.) で報告されてきたが、本邦からは未記録である。本邦に最も近い海域ではパラオ諸島〜カロリン諸島からの記録がある (MYERS, 1989)。日本産のメギス科魚類 (Pseudochromidae) はこれまでに6種類が知られていた (林, 1988)。本種、セダカニセメギス (新称) は日本から未記録であるので、本報で外部形態や生息状況、体色についての知見を報告する。

記載と計測部位については McCULLOCH(1926), FOWLER (1931), SCHULTZ (1953) を参考とした。計数値は70%エチルアルコールに保存した資料によるもので、標本は東京大学農学部水産学科 (FUMT-P), 国立科学

博物館 (NSMT-P) と横須賀市自然博物館 (YCM-P) に保管した。稿を進めるにあたり、調査・採集を援助された相模湾海洋生物研究会の諸氏、標本や写真を提供された東京大学農学部水産学科の佐野光彦氏、(株)伊豆海洋アカデミーの益田 一氏に対し深謝する。

Pseudochromis fuscus MULLER and TROSCHER
(新称: セダカニセメギス・第1a, b図)

Pseudochromis fuscus MULLER and TROSCHER, 1849 : 23, pl. 4, fig. 2 (type from Celebes Is., Indonesia); BURGESS and AXELROD, 1988 : 209, pl. 152; MYERS, 1989: 113, pl. 37-c (Indo-west Pacific); RANDALL *et al.*, 1990: 127, (Great Barrier Reef); KUITER, 1992: 42, fig. a, b (Indonesia).

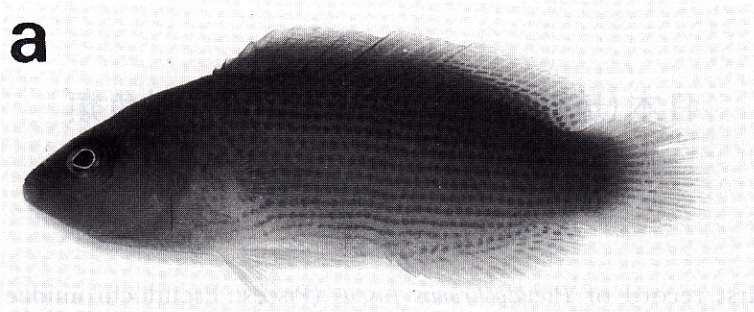
Dampiera cyclophthalma: MULLER and TROSCHER, 1849: 益田ほか, 1975: 226. pl. 53-L (southern Japan).

供試標本: YCM-P23484 (5 個体, 体長18.1-56.2mm),

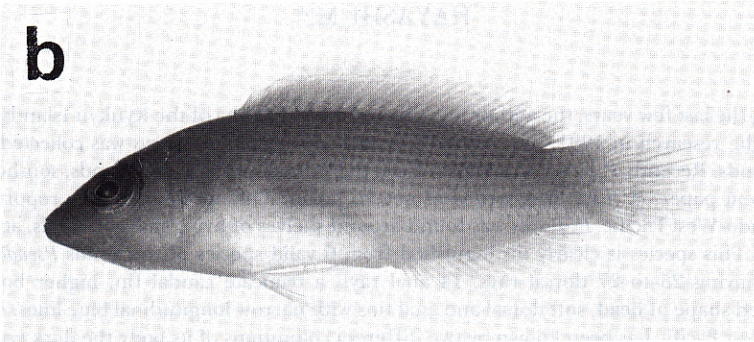
* 横須賀市自然博物館 Yokosuka City Museum, Yokosuka 238.

原稿受付 1992年10月1日 横須賀市博物館業績 第439号.

キーワード: 初記録, 分布, 日本, メギス科 Key words: new record, distribution, Japan, Pseudochromidae



第1a図 セダカニセメギス(暗色型) *Pseudochromis fuscus* (Dark type) 雄
YCM-P23484-2, 体長44.8mm, 奄美大島崎ノ目.



第1b図 セダカニセメギス(淡色型) *Pseudochromis fuscus* (Pale type) 雄
YCM-P26470, 体長28.4mm, 加計呂麻島知ノ浦.

YCM-P23585 (1, 51.6mm), 奄美大島崎ノ目; NSMT-P (1, 45.5mm), YCM-P28360 (1, 50.1mm), YCM-P28361 (1, 50.4mm), YCM-P28377 (4, 21.8-50.8mm), 奄美大島阿鉄; YCM-P26470 (1, 28.4mm), 加計呂麻島知ノ浦; FUMT-P4185 (5, 55.1-59.8mm), 沖縄本島港川; YCM-P1780,4418,4419 (4, 31.5-47.7mm), 石垣島川平湾; YCM-P7625, (1, 26.3mm), 西表島網取湾; YCM-P12092, (1, 31.6mm), フィリピン・パラワン島.

記載: 背鰭 III,26-27; 臀鰭 III,14-15; 胸鰭17-20; 腹鰭 I,5; 尾鰭分岐軟条(上葉+下葉) 9+8=17; 第1鰓弓鰓耙数 5-9+11-15=17-21; 縦列鱗数34-43; 横列鱗数16-18; 背鰭前部鱗数14-15; 有孔側線鱗数(上方+下方) 28-31+6-9; 背鰭前部担鰭骨数3; 脊椎骨(腹椎骨+尾椎骨)数10+16=26.

全長122.6-124.0%(体長に対する百分率, 以下同様); 頭長32.0-34.7; 眼径 7.6-9.2; 吻長 8.6-10.1; 両眼間隔 5.4-7.5; 上顎長12.0-13.8; 体高(背鰭始部) 31.5-33.2; 尾柄高15.6-16.7; 尾柄長 6.5-9.1; 吻端-背鰭基始部37.8-39.7; 背鰭基始部-臀鰭基始部42.0-45.2; 背鰭基底長58.5-60.6; 背鰭最長棘長(第3棘) 8.2-10.3; 吻端-臀鰭基始部 62.5-65.7; 臀鰭最長棘長 7.5-9.5; 吻端-胸鰭基部33.9-35.7;

胸鰭最長軟条長23.2-25.1; 吻端-腹鰭基始部35.5-37.4; 腹鰭長26.3-30.3.

頭は背鰭始部から吻部にかけてほとんど直線状。吻部はやや尖り, 下顎は上顎よりわずかに突出する。主上顎骨の後端は瞳孔の前縁下に達する。両顎歯は微小な歯帯を形成し, 上顎に2対, 下顎に1対の明瞭な犬歯状歯がある。鋤骨と口蓋骨には小歯がある。第1鰓弓の鰓耙はよく発達する。前鰓蓋骨の後側縁は平滑で, 隅角部はわずかに波状型となる。前鼻孔は短い管状。体は側偏し, 体幅は比較的薄い。体高は比較的高く, 背鰭棘始部付近が最も高い。側線は2列で完全。背側にある上方側線は背鰭棘始部付近で強く湾曲し, 臀鰭基底の中央上付近で終わる。尾部中央にある下方側線は最終上方側線鱗のほぼ直下付近より始まる。背鰭と臀鰭の前方に硬くて鋭い3棘があり, 後方のものほど長い。臀鰭棘の第2と第3棘はほぼ同長。背鰭の前部16~17軟条と臀鰭の前部2~3軟条は不分岐で, 残りの後方背鰭軟条と臀鰭軟条は全て分岐する。体は櫛鱗で覆われ, 頭部や背部前域, 胸部には円鱗がある。前鰓蓋部には円鱗が斜めに4~5列あり, 背鰭と臀鰭の前方基部は稀に小鱗で被われる。尾柄長(体長の約8.2%)は尾柄高(体長の約15.9%)よりも短い。

尾鰭は截形だが、両角がわずかに丸いものと細長く伸びるものがある。

生時の体色： 体色にはかなりの個体差があるが、大別して淡色型と暗色型の2型になる。淡色型の生時の体色は体全体が淡黄色または淡褐色。各鰭は透明な鰭膜を除き体色と同一。体の各鱗の基部には1灰青色斑があり、体側では縦帯状の小点列(12~13列)をなす。背鰭と臀鰭には黄色斑が多数あるが、それぞれの斑点は連なって3~4本の細縦線になる。尾鰭の基部にも黄色斑が散在する。眼上部周縁に暗青色線があり、瞳は黒色で西洋梨型の金色環で縁取られる。胸鰭の基部に細い黄色帯がある。暗色型の生時の体色は、体全体が暗褐色または頭から背部が黒褐色で腹部が橙赤色の場合とがある。黒褐色の背鰭を除きあとの各鰭は橙赤色。体側にある斑紋の色彩と形状は淡色型と同一。背鰭、臀鰭、尾鰭にある斑紋の形状は淡色型と同様であるが、色は体側と同じ灰青色である。胸鰭の基部にある細い暗褐色帯は明瞭なものと不明瞭な個体がある。

標本の体色(70%エチルアルコール固定): 体全体が、淡色型では淡褐色、暗色型では黒褐色となり、体側や鰭条の色斑は消失する。胸鰭基部の暗褐色帯と眼上部周縁の暗青色線は比較的明瞭に残る。

生息状況： 水深15m以浅のサンゴ礁海域に多い。礁湖やタイドプールなどにも生息し、やや泥底質の環境にもすむ。主に単独で活動し、サンゴ塊やピーチロックの物陰に潜みテリトリーを持つ。サンゴ塊の規模により数尾が同所で見られることもあり、その中には淡色型と暗色型が混じる。

分布： 八重山・沖縄・奄美諸島(本報告)。セレベス島、インドネシア(MUELLER and TROSCHER, 1849; KUITER, 1992)。インド~ソロモン諸島・北部台湾(MYERS, 1989)、オーストラリア(グレート・バリアー・リーフの南部域)・パラオ諸島~カロリン諸島(RANDALL *et al.*, 1990)。

備考： 本種はインドネシアのセレベス島(現スラウェシ島)で採集された標本に基づき、MUELLER and TROSCHER (1849)によって新種記載された。しかし本種の原記載が分類学上十分でなかったこともあり、後になって本種の記載と共に異名同種の記載も多くなされた。その後 McCULLOCH (1926)やFOWLER (1931)により、既知種の中から本種の異名同種(*Pseudochromis adustus*; *P. wildii*; *P. nebulosus*; *Onar nebulosum*)が整理された。FOWLER (1931)によって指摘されているように、本種の体色は極めて変異に富み個体差も認められる。RANDALL *et al.* (1990, p. 128)はオーストラリア産の本種に

も淡色型と暗色型の2型があることを生態写真で図示した。琉球列島産の本種も、体色の検討から RANDALL *et al.* (1990)が指摘するように2型に類別できた。しかし淡色型の色彩については RANDALL *et al.* (1990)や MYERS (1989)と同一であったが、暗色型の色彩は本報の記載にある通りで、RANDALL *et al.* (1990)の暗色型とは異なっていた。暗色型については個体差とはべつに地域個体群による変異が考えられる。この体色の2型について、成長段階と雌雄差の観点から検討したが、根拠となる十分な結果は得られなかった。メギス科魚類については体色による性的2型や性転換のあることが報告されているので(LUBBOCK, 1975)、本種の2型についても今後詳細な検討が必要である。

フィリピン海域に分布する *Pseudochromis aureus* SEALE, 1909は、本種と外部形態や係数計測値が極めて類似するが、前種の背・臀鰭軟条に斑紋がないことで本種と区別できる。

引用文献

- FOWLER H. 1931. Fishes of the families Pseudochromidae, Lobotidae, Pempheridae, Priacanthidae, Lutjanidae, Pomadasysidae, and Teraponidae, collected by the United States Bureau of Fisheries Steamer "Albatross", chiefly in Philippine Seas and adjacent waters. *Smithsonian Inst., U.S. Natn. Mus., Bull.* 100, vol. 11, xi+388 pp.
- 林 公義 1988. メギス科. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀 忠一・上野輝弥・吉野哲夫編. 日本産魚類大図鑑. 和文版. 第2版: 135-136, 図版126. 東海大学出版会.
- KUITER R.H. 1992. *Tropical reef-fishes of the Western Pacific, Indonesia and adjacent waters.* xiii+314 pp., PT Gramedia Pustaka Utama.
- LUBBOCK R. 1975. Fishes of the family Pseudochromidae (Perciformes) in the northwest Indian Ocean and Red Sea. *Jour. Zool. Lond.*, 176: 115-157.
- 益田 一・荒賀 忠一・吉野哲夫 1975. 魚類図鑑, 南日本の沿岸魚. 382ページ. 東海大学出版会.
- McCULLOCH A.R. 1926. Report on some fishes obtained by the F.I.S. "Endeavour" on the coasts of Queensland, New South Wales, Victoria, Tasmania, South and Southwestern Australia. *Biological Results of the Fishing Experiments carried on by the F.I.S. "Endeavour" 1909-14*, 5(4): 157-216.
- MULLER J. and TROSCHER F.H. 1849. Reisen in British-Guiana in den Jahren 1840-1844 (Im auftrag

- Sr. Majestat des Königs von Preussen ausgeführt von Richard Schomburgk. *Versuch einer Fauna und Flora von British-Guiana, [Fische]*, 3: 618-644.
- MYERS R.F. 1989. *Micronesian Reef Fishes*. vi+298 pp., 144 pls., A Coral Graphics Production.
- RANDALL J.E., ALLEN G.R. and STEEN R.C. 1990. *The complete divers' & fishermen's guide to fishes of the Great Barrier Reef and coral sea*. xx+507 pp., Crawford House Press.
- SCHULTZ L.P. 1953. Fishes of the Marshall and Marianas Islands. *U.S. Natn. Mus., Bull.* 202, vol. 1, xxxii+685 pp., 74 pls.
- SEALE A. 1909. New species of Philippine fishes. *Philipp. Jour. Sci.*, 4(6): 491-543, pl. 1-13.